

第2回有識者懇話会等における主なご意見と改訂案への反映状況

参考資料2

No.	章	主な意見	反映状況・考え方
1	4章	●P38の「めざす姿①(実現に向けた全体像)」の「全道への効果の波及」という表現は、道央以外の方に少し消極的に受け取られることも考えられるため、例えば、「全道への効果の波及(デジタルの好循環による地域課題解決と豊かな道民生活の実現)」とするなど、道央のみならず「道民全体のために、生活のためになるんだ」ということを強調してはどうか。	P39【第4章1 めざす姿①(実現に向けた全体像)】 P46【第4章4 めざす姿④-1(全道への効果の波及～各産業でのAI-DX展開)】 ●全道への効果の波及については、AIの実証・実装事例を担い手不足といった様々な課題を抱える道内の各地域に展開することで、地域の産業の省力化・生産性向上や暮らしの利便性向上につなげていくこととしており、ご指摘の点は、「めざす姿④-1」でお示しているものと考えている。
2	4章	●P41の「めざす姿④-1(全道への効果の波及～地域の付加価値向上)」は、P42の「めざす姿④-2(全道への効果の波及～デジタルの好循環の全道展開)」と併記するより、「めざす姿③の複合拠点+半導体製造を契機に道内地域にもプラスの影響が及ぶ」という整理の方が理解しやすいのではないかと。また、「めざす姿④-1」は、「地域の付加価値向上」と言ってしまうと全てになってしまうので、この言葉がミスリーディングかと思う。	P47【第4章4 めざす姿④-2(全道への効果の波及～地域の付加価値向上)】 ●今回の改訂では、「めざす姿④-1、④-2」を「全道への効果の波及」の2つの柱として提示し、複合拠点の実現に向けた「めざす姿③」と、全道への効果の波及に向けた「めざす姿④-1、④-2」を合わせて、全体として、「複合拠点+道内地域にもプラスの影響が及ぶ」ことをお示しているものと考えている。
3	4章	●P42の「めざす姿④-2(全道への効果の波及～デジタルの好循環の全道展開)」につながるような、「北海道にとっても良いことがある」ということを「めざす姿④-1(全道への効果の波及～地域の付加価値向上)」で出すのは、良いアイデア。「半導体製造の波及が地方にもある」ということを、P40の「めざす姿③(複合拠点の実現)」に吸収して書くなどの方法もある。地方では、道央に半導体の製造拠点ができて、自分たちにどんな「良いこと」があるのかに関心があるが、その「良いこと」は「めざす姿④-2」に書かれていると思う。「めざす姿④-1」はその前振りにするのが良い。	
4	4章	●「めざす姿④-2」はこのくらい書いていないとだめだと思う。ただし、この1枚で理解させようとするのは厳しいので、分かりやすさは工夫されるべき。「めざす姿④-2」は全体像として、補足を加えるのが良いのではないかと。	P46【第4章4 めざす姿④-1(全道への効果の波及～各産業でのAI-DX展開)】 P47【第4章4 めざす姿④-2(全道への効果の波及～地域の付加価値向上)】
5	4章	●「めざす姿④-2」が今回のビジョンの肝になる部分と理解。また、ここに必要な項目が網羅されていると思うが、ページを少し増やすなりして、もう少し分かりやすくした方が良くはないかと感じた。「ビジョン」というからには、ビジュアルでも、ぱっと見てこういうことだねと分かるようにするのが良いと思う。	●AI等による地域課題の解決という効果を全道へ展開するべく、新たな概念図を示すことが今回の改訂のポイントのひとつであるため、「めざす姿④-1、④-2」の記載順を変更。また、「めざす姿④-1」は、道内各地の産業にAI-DXを展開し、全道に効果を波及させることを示すものであることから、表題を変更。なお、「めざす姿④-1」はAI-DX展開の全体像を説明するものと位置付け、具体的な取組については、P49以降に記載。
6	4章	●「めざす姿④-2」は10ページくらいのボリュームがある内容。ビジョンにAIが加わることの大きな意味は、AIというブリッジをかけると地域と施策がつながること。AIをもっと全体的に強調した方が良い。 ●道の政策で「波及」という言葉がよく使われるが、波及というのは、真ん中があって周辺に流れていくもの。しかし、出来事は地方で起きている。ストーリーの流れが中央から地方と見えるが、デジタルになると違うことが起きるので、それをサポートするのが道の政策だというストーリーを期待。	<変更前> めざす姿④-1(全道への効果の波及～地域の付加価値向上) めざす姿④-2(全道への効果の波及～デジタルの好循環の全道展開) <変更後> めざす姿④-1(全道への効果の波及～各産業でのAI-DX展開) めざす姿④-2(全道への効果の波及～地域の付加価値向上)
7	4章	●「めざす姿④-2」の青色の部分が大事で、どう具体的にストーリーを作れるかだと思う。ある地域の課題は他の地域にも十分共通するような場合も多いので、エコシステムのような書き方にすることが重要。北海道に関心のあるスタートアップ等に対してどのように発信したら北海道に来てもらえるか、具体的かつもう少しメッセージ性があるのも良いと思う。このビジョンが誰を対象にしたものかということも重要。	
8	4章	●めざす姿④-1は、「北海道に新しいテクノロジーが来たらとてもよくなります」とするか、「後半のセクションを切り取った部分なのです」とするか、どちらかにした方が良くないかと思う。めざす姿④-2は、丁寧に説明していくと理解されると思うので、このままでも良いのではないかと思う。	

No.	章	主な意見	反映状況・考え方
9	4章	●イノベーションという言葉の使い方について、物を作るだけではなくて、使う方もイノベーションだと思うので、道として考えるイノベーションの定義を広げると良いと思う。道庁や札幌で考えたアイデア、開発された科学技術、千歳でできたものが全道に流れ込むというイメージではなくて、全道の各所から小さいエコシステムに流れ込んでくるというイノベーションだと、情報の流れができると思うし、それを作らなければいけないと思う。	<p>P42【第4章2 めざす姿の実現に向けた課題と方針(複合拠点の実現に向けて)】 P46【第4章4 めざす姿④-1(全道への効果の波及～各産業でのAI-DX展開)】</p> <p>●「方針2 イノベーションの創出」は、次世代半導体やAIに関するユースケースの開拓研究等も想定しており、令和7年度からは、道、札幌市、千歳市、北海道大学、公立千歳科学技術大学が連携し、人材育成と研究開発を一体的に推進する取組を実施。</p> <p>●「めざす姿④-1」の地域課題解決に向けては、まず、地域で生じている様々な課題を吸い上げ、地域のニーズと企業シーズのマッチング等に取り組むこととしている。</p>
10	4章	●P45の「複合拠点の実現に向けて①(方針1)」以降は、方針3までと方針4以降で色が違うのは、深い意味があるのか。公表されたときに、色が違うと、疑問を持たれると思う。	<p>P43【第4章3 複合拠点の実現に向けて①(方針1)】から P50【第4章6 全道への効果の波及に向けて②(方針4-②)】まで</p> <p>●めざす姿・課題・方針と、各ページの配色との関係が分かりやすくなるよう、スライドの順番や配色を変更。</p>
11	4章	●行政機関や関係団体が、率先してデジタル好循環の輪に飛び込まない限り、道央以外の地域にまで好循環が及ぶことは無いと思う。地銀や信金などまで、デジタル好循環のプレーヤーを広げていく必要があり、そのような観点をどこかに盛り込むことはできないか。	<p>P49【第4章6 全道への効果の波及に向けて①(方針4-①)】</p> <p>●説明文に、産学官金の関係者による緊密な連携について文言を追記。</p>
12	5章	●今回の改訂に合うKPIがあっても良いと思う。AIに関するものを別に立てるのはあり得るかもしれない。今回のコンセプトに合うKPIをうまく見つけられればと思う。	<p>P54【第5章2 目標値】</p> <p>●新たな目標値として、「⑧ 道内におけるAIの実装に向けた実証試験の件数」を設定。</p>
13	5章	●AIは勘定できないが、データはデータセンターの数や情報処理量などで勘定できる。データセンターが立地すると、どのくらいのデータが来るか、AI開発にどう影響するかなど、見えないもの見える化する数字があると良い。	
14	5章	●AI関連の目標はあるべきと思うが、いきなり指標を設定するのは厳しいので、その目標値の前に先行指標を作ることができればと思っている。	
15	5章	●目標値に、AI部分も追加することは可能かと思う。AI関連の指標を1本ぐらい増やし、今ある目標値については、「この目標値については広げよう」というふうにしてよいと思う。	
16	5章	●方針1～3の目標値については、全道の値のみならず、道央と道央以外(できれば各振興局毎に)の数値をモニタリングすべき。今後の目標値を開発するという意味で、モニタリング指標を検討することを考えてみてはどうか。	
17	全体	●概要版を作成する予定があれば、一度見せていただきたい。	●別冊【概要版】を作成。
18	資料	●全体を通して、国際的観点がやや乏しいのかなということ。言葉の使い方だと思うが、次世代半導体をトリガーに世界に挑むという感じがあると良いと思う。	<p>P102【資料編 3-7 米国ニューヨーク州との連携】</p> <p>●今回の改訂では、道、ニューヨーク州経済開発公社及びニューヨーク・クリエイツによる半導体の研究開発・人材育成等での連携に関するMOU締結等を記載しており、今後、MOU等に基づき、米国等との連携を図りながら、複合拠点の実現などに向けた取組を進めることとしている。</p>